



なんだかおもしろそう

年少 すみれ組

ある日、「パーティでーす」の声がかかり、子どもたちは自分の遊びの手を止めて、次々とテーブルに集まってきました。椅子に座って待つ子の横でサンドイッチをつくる子、飲み物を渡す子、ケーキを取り分ける子、「あ、コップがないや」と慌てて取りにいく子がいます。あっという間にパーティの準備が整い、「かんぱーい！」とコップを鳴らし合いました。

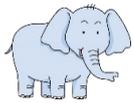
別の日、保育室の外でトイレに行ったり、着替えをしたりしている子を待つ間、「〇〇マークの△△ちゃん」「はーい」、「□□マークの☆☆くん」「おーやすみ」という声が聞こえてきました。保育者は着替えを手伝っている最中で、そこにはいません。声がする方を覗いてみると、子どもたちは丸くなって座り、順番にマークと名前を、自分たちだけで呼んでいました。驚いたのは、この日のお休みの子を把握していたことです。その後、トイレや着替えが終わった子も仲間に入り、大きな円になって子どもたちだけでクラス全員のお名前呼び(お休み調べ)をしていました。

また、広い園庭では、遠くからトイを運んでいる子がいると、次々と仲間が加わり、トイをつなげ合って長い長い「平らな道」をつくりました。「ボールを転がしたいんだよな」という声に「水を流したらいいんじゃない？」という声が応えます。それを聞いて、小さいカップに何度も水を汲んでくる子、バケツで一気に入りを流す子、ジョーロでそっと流しながらボールを転がしていく子たちが思い思いに楽しむなか、一人の子が「どうしてもホースで流したい」とホースをたくさん運んできました。けれども、ホースは水道には届きません。そこで、ジョーロでホースの口まで水を運び、ホースに水を流し込みます。そのうちボールを転がすことは忘れ、ホースに水を流したい一心で水を運び続けました。年中さんの助言もあり、山の上から伸ばしたホースに水を注いでみたところ、長く繋いだホースの出口まで水が流れていきました。このホースに水を流すという遊びは数日続き、山の上まで水を運ぶ仲間が日々増えていきました。



自分の遊びに夢中になりながらも友だちの声に耳を傾け、「何しているのかな？」と友だちの行為に目を向け、「面白そう！」と自然に仲間が集まることがあります。ほんのひと時でも、友だちと一緒に遊ぶ楽しさ、声が揃った時のわくわく感、一緒にその場にいる面白さを味わえたらと願っています。(玉井三津)





試行錯誤の芽ばえ

年中 ゴう組

5月末、車をつくることを楽しむようになりました。坂道を走らせたり、ごっこ遊びをしたりして楽しんでいます。そのうち、パトカーが出てきたり、ぶつかって壊れた車を修理のために運ぶ牽引車も登場したりしました。

ある日、Aちゃんは、自分のつくった車を牽引車に引っ張ってもらいたいようですが、何やら困っています。牽引車からは紐が伸びており、紐の先には洗濯バサミが付いています。その洗濯バサミで牽引される側の車を挟むと、牽引車はうしろの車を引っ張ることができます。しかし、Aちゃんの車は箱型の四輪で、洗濯バサミで挟める余地がないようでした。

困っていることを周りの子に知らせると、Bちゃんは「ここに付けたら？」とタイヤの軸に洗濯バサミを付けてみます。しかし、Aちゃんはしばらく考えて「ここだと車が動かなくなっちゃう」と伝えます。次に、Bちゃんは、前面のバンパー辺りの右側に小さな切込みがあることに気づき、そこをつけることを提案します。しかし、その切込みは、Aちゃんがライトをイメージして入れた切込みでした。なかなかいいアイデアが思いつきませんでした。突然「あ、わかった」とAちゃんは何か閃いたようで工作コーナーに向かいます。

しばらくすると、Aちゃんの車のフロント・バンパーの中央部辺りに、洗濯バサミがちょうど挟めるような突起が取り付けられていました。牽引される車を真っすぐ進ませるには中央部を引いた方がいいだろうということ、そのためにバンパーの真ん中辺りに何かを取り付ければいいのかもしいということに気づいたのでしょう。その突起は平らな紙でできてはいますが、まさに牽引フックの働きをします。友だちのアイデアも聞きながら、試行錯誤している様子が分かります。

また違う遊びでは、ぬいぐるみや自作の人形を乗せるために電車をつくっていました。Cちゃんは、小さな人形がたくさん乗るように、電車の上部を大きく切っています。Dちゃんも同じように人形を乗せようとしたのですが、Dちゃんが選んだお猿の人形は大きくて、牛乳パックの電車にはとてもではないけれど乗れません。

こういう場合、人形のサイズに合わせて、大きめのトレーや箱を電車に取り付けることがしばしばあります。しかし、Dちゃんアイデアは、私の予想を大きく超えるものでした。

Dちゃんの電車は、窓として側面に5～6カ所の穴が開いていました。その穴に、人形の脚と手を差し込むようなかたちで、電車に乗せたのです。全く予想がつかない解決策でした。みごと、お猿の人形はDちゃんの電車に乗ることができました。

うまくいかないことに出会っても、試行錯誤しながら、時に、大人も驚くような発想で、乗り越えていきます。子どもたちの試行錯誤の根っこには、日々の遊びで培われた「これがしたい！」という思いがあるのかもしれない。(西井宏之)

